

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K04442

研究課題名(和文)家庭科授業のユニバーサルデザインに関する実証的研究 - 二次的困難を防ぐために -

研究課題名(英文) Empirical Study on Universal Design of home economics Classes : To prevent secondary difficulties

研究代表者

伊藤 圭子 (ITO, Keiko)

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：50184651

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：特別な教育的ニーズを必要とする子どもを包含した通常学級での家庭科授業に焦点をあて、二次的な困難を防ぐための家庭科授業におけるユニバーサルデザインの指導方法を開発するとともに、それらの指導方法を用いた家庭科におけるユニバーサルデザイン授業を提案した。さらに、家庭科教員を対象とした家庭科授業のユニバーサルデザインチェックリストを冊子版およびICT活用版で開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家庭科教員は多様な教育的ニーズを必要とする子どもに応じた授業の在り方に、一人で悩み試行錯誤しながらも授業を行っていたが、本研究によって家庭科のユニバーサルデザインの指導方法を用いた授業および家庭科授業独自のユニバーサルデザインチェックリストが開発できたことは、家庭科教員が合理的配慮に対応した授業を立案・実践することを可能とし、さらには、実習授業の多い家庭科において二次的困難は子どもの事故や怪我に繋がりがやすいが、その危険を回避できる一助となる。

研究成果の概要(英文)：Focusing on home economics classes in regular classes that encompass children with special educational needs, we developed teaching methods for universal design in home economics classes to prevent secondary difficulties. In addition, based on these results, we developed and prepared a universal design checklist for home economics classes for home economics teachers in both booklet and ICT-based versions.

研究分野：家庭科教育

キーワード：家庭科 インクルーシブ教育 授業のユニバーサルデザイン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

国連の障害者の権利に関する条約への批准に向けて、平成24年7月に示された「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(中央教育審議会初等中等教育分科会 特別支援教育のあり方に関する特別委員会)では、インクルーシブ教育の推進と合理的配慮への留意が強調され、合理的配慮に対応できる教員が求められている。特に実践的・体験的に学習する機会が多い家庭科においては、特別支援教育や特別な教育的ニーズを必要とする子どもに関する専門的知識が乏しいことから、指導に不安を持つ家庭科教員が多くみられ、合理的配慮に基づく家庭科授業を保障できるか危惧される。例えば、調理実習や被服実習などの家庭科授業では、教師の授業実践力不足等が原因で、子どもに危険を伴う二次的困難を生じさせている場面もみられる。

子どもの教育的ニーズに応じた適切な教材・教具や指導方法の提供があれば、家庭科教員はどのような教育的ニーズを持つ子どもにも家庭科の学びを保障することが可能となるであろう。そして、特別な教育的ニーズを有する子どもを包含した通常学級における家庭科授業のユニバーサルデザインチェックリストがあれば、家庭科教員は子どもたちが「わかる・できる」ようになる授業に取り組むことが可能となる。しかし、これらの開発は緊急に取り組むべき課題となっている。

## 2. 研究の目的

本研究は、特別な教育的ニーズを必要とする子どもを包含した通常学級での家庭科授業に焦点をあて、二次的困難を防ぐため、複式教育の指導方法などを応用して、家庭科授業のユニバーサルデザインの指導方法を提案し、さらに家庭科教員を対象とした家庭科授業のユニバーサルデザインチェックリストを作成することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するため、次のように研究を進めた。

### 1) 家庭科授業における危険状況の把握

全国小学校家庭科教育研究会地方理事と全日本中学校技術・家庭科研究会事務局長に推薦された家庭科担当教員に対して、質問紙調査を郵送法により実施した。有効回収数は302名(有効回収率72.8%)で、その内訳は小学校177名(83.5%)、中学校125名(61.6%)であった。調査項目は、教師の基本属性(教師歴、家庭科教員免許の有無など)、授業場面における危険状況、危険状況が生じる要因、危険回避のための支援要望などであった。

### 2) 家庭科におけるユニバーサルデザイン授業の提案

現職家庭科教員と共に、インクルーシブな家庭科授業を収集・検討し、家庭科の新たな指導方法を開発し、それらを整理して提案した。

### 3) 家庭科におけるユニバーサルデザインのためのチェックリストの開発

各都道府県市の教育委員会のホームページに掲載されている、インクルーシブ教育の観点からの教師向けチェックリストを収集・検討し、1)2)の結果を踏まえて、家庭科におけるユニバーサルデザインのためのチェックリストを開発した。

## 4. 研究成果

### 1) 家庭科授業における危険状況について

家庭科授業における子どもが怪我をした場面、「ヒヤッと」「ハッと」した場面を家庭科担当教員に問うた結果、その出現頻度は調理実習(小学校61.6%、中学校54.8%)、被服実習(小学校35.1%、中学校31.8%)の順に多く挙げられていた。

その状況が生じる要因として、「子どもに関する要因」では、多種類の用具を扱う実習場面において、具体的な危険状況から「多様な配慮を必要とする」子どもや「生活経験が乏しい」子どもに対するきめ細かい指導が求められるにもかかわらず、指導に苦慮している状況がみられた。「教員に関する要因」として、「作業手順・技術指導の不足」と「実習態度の指導不足」(25.3%)が多く挙げられていた。「施設・設備に関する要因」としては、「施設が狭い」「施設老朽化」をあわせると約7割を占めていた。施設の狭さとして、家庭科室、作業台、机間が多く挙げられていた。家庭科教員には安全な実習環境を整備する役割があるが、家庭科教員のみでは解決できない多くの施設・設備の改善に関する困難さを感じていた。

家庭科担当教員は危険状況が生じる要因を認識し、危険回避のための支援として、人員配置や施設・備品の安全管理のための予算措置などの要望を強く持っていた。つまり、家庭科担当教員は、授業場面における危険に結びつくハザードとそれによって生じるリスクの可能性を認知しているにもかかわらず、それを要望しても実現しない状況の中で、日々不安を抱えながら授業を実践しているといえる。家庭科授業で生じている危険状況を、授業を担当する教員間のみならず、行政や管理職及び全教員で共有することで、家庭科の授業環境の改善が図られることが課題である。

## 2) 家庭科におけるユニバーサルデザイン授業の提案

先行家庭科授業実践や特別支援教育における先行授業実践を収集し、それを「子どもの困難状況」に対応させながら支援方法を分類し、それぞれの困難状況別に基本的対応や具体的な支援方法を検討し、一覧表を作成した。

この一覧表を現職家庭科教員と共有化することによって、現職家庭科教員による先行授業実践を現職家庭科教員と共にインクルーシブ教育の観点から検討・修正した。さらに、特別な教育的ニーズを必要とする子どもを包含した通常学級での家庭科授業に、異学年を同時に指導するために、様々な工夫がみられる複式教育の指導方法を適用したユニバーサルデザインによる家庭科授業も提案した。

## 3) 家庭科におけるユニバーサルデザインためのチェックリストの開発

各都道府県市の教育委員会のホームページに掲載されているインクルーシブ教育に関する教師向けチェックリストは、子どものつまずきの実態把握にとどまるものが多くみられたが、それに応じた支援方法まで提示されたものは少なかった。

そこで、家庭科教員の使いやすさを考慮して、子どもの教育的ニーズ別に具体的支援・指導方法を提示する冊子及びICTによるチェックリストを開発した。開発にあたり、「構成内容」(子どもの実状に共通して必要な支援、行動特徴に応じた支援)と「実用性」(授業場面ごとに、実践事例の授業展開、板書、写真やワークシートなどを用いて視覚的にわかりやすく)を重視した。具体的には、子どもの教育的ニーズ(不注意、興味・関心が狭いなどの行動特徴)ごとに、支援の観点(授業構成、教材・教具、板書、指示・発問、子どもとのかかわり、学習環境、保護者との連携など)に関する具体的実践事例を提示した。

## 4) 従来の家庭科授業の在り方における問い直し

通常学級におけるすべての子どもが教育的ニーズを有しているという観点から、家庭科のユニバーサルデザインの指導方法がさらに開発されることにより、すべての子どもの合理的配慮に留意した授業の実践が可能となる。そして、このことはこれまで実践されてきた家庭科授業の在り方を問い直す機会となると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 伊藤圭子	4. 巻 61・4
2. 論文標題 家庭科におけるインクルーシブ教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 248-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤優・山本奈美・伊藤圭子	4. 巻 47号
2. 論文標題 中学校家庭科の「幼児とのふれあい体験学習」における教師の危険意識に関する検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 就実論叢	6. 最初と最後の頁 125-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤圭子	4. 巻 59巻1号
2. 論文標題 特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした家庭科教育	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本家庭科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 3-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤井志保・中山美充子・伊藤圭子・高橋均	4. 巻 第45号
2. 論文標題 中学校家庭科における「幼児とのふれあい体験学習」 アクティブ・ラーニングによる授業モデルの開発と実践	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村由佳・伊藤圭子	4. 巻 第5号
2. 論文標題 小学校における初任家庭科教員が直面する困難克服プロセスの検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学習システム研究	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuka Nishimura and Keiko Ito	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 The Process of Overcoming Difficulties Faced by Novice Home Economics Teachers in Elementary Schools	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Theory and Research for Developing Learning Systems	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月てる代・伊藤圭子	4. 巻 22
2. 論文標題 小学校の調理器具・用語に関する知識の定着	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 学校教育実践学研究	6. 最初と最後の頁 283-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 望月てる代・伊藤圭子	4. 巻 4
2. 論文標題 小学校教員養成課程学生の調理器具・用語に関する知識の実態	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 斎藤紀子 伊藤圭子
2. 発表標題 特別支援学校高等部「家庭」における中・高接続に関する教師の課題意識
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原知恵・伊藤圭子
2. 発表標題 中学校家庭科と家庭との連携をうながす支援の検討
3. 学会等名 日本家庭科教育学会中国地区会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤優・山本奈美・伊藤圭子
2. 発表標題 中学校家庭科の「幼児とのふれあい体験学習」における教師の危険意識に関する検討
3. 学会等名 日本家政学会第69回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤圭子・小林歩
2. 発表標題 子どもの「つまずき」に着目したインクルーシブな家庭科授業 の検討 - 小学校における単元 「わくわくミシン 」 -
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤圭子・山本奈美
2. 発表標題 小・中学校家庭科の被服実習における安全教育の実態
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本奈美・伊藤圭子
2. 発表標題 小・中学校家庭科の調理実習に関連した安全指導の実態調査
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤圭子・山本奈美・伊藤優
2. 発表標題 家庭科授業における「危険」に対する教師の意識に関する検討
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤圭子
2. 発表標題 新任家庭科教員が直面する困難の克服過程 - 新任教員へのインタビュー調査 -
3. 学会等名 日本家庭科教育学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤井志保・伊藤圭子
2. 発表標題 ケアリングを育む中学校家庭科の授業開発
3. 学会等名 日本家庭科教育学会中国地区会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 多々納道子 伊藤圭子編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 194
3. 書名 実践的指導力をつける家庭科教育法	

1. 著者名 伊藤圭子編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 開隆堂	5. 総ページ数 94
3. 書名 「気になる子ども」と共に学ぶ家庭科ー特別な支援に応じた授業づくりー	

1. 著者名 伊藤圭子ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育図書	5. 総ページ数 160
3. 書名 アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発ー「深い学び」に向けて	



1. 著者名 日本教科教育学会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 213
3. 書名 教科教育研究ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----